

〈テーマ〉 既習事項を活用し、課題解決の見通しを持つ取組

【実践の概要】

本時の問題

「ゼリーが□こあります。1人に3こずつ分けると何人に分けられますか。」

- に12や15を入れた場合  
⇒ 簡単。12÷3=4, 15÷3=5 わる数の3の段の九九を使って答えが分かる。
- に14を入れた場合  
⇒ これまでのわり算の解き方では、できない。3の段の答えには14がない。
- わり切れるわり算から、わり切れないわり算の順で提示することで、本時の課題を明確にし、学習課題解決の見通しを持たせた。

本時の課題

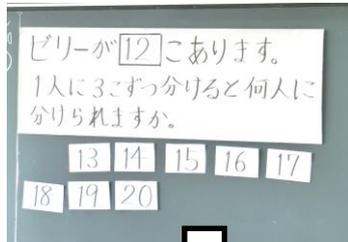
「14÷3の答えの見つけ方を考えよう」

自力解決

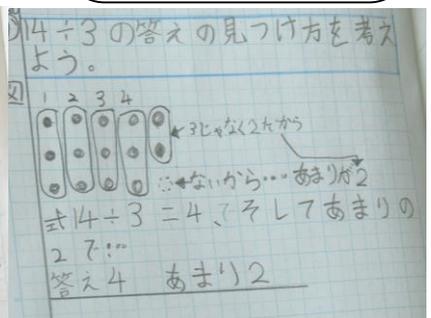
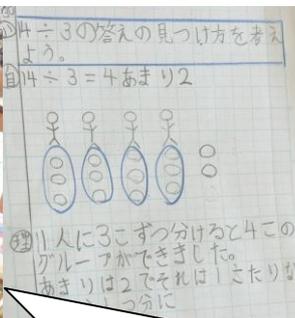
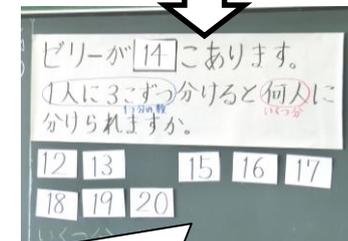
- 既習事項である「わり切れるわり算」の考え方を活用し、おはじきや絵、図、言葉、式を使って14÷3の課題解決に取り組んだ。

集団解決

- 発表者の共通点として14÷3の答えが「4人に分けられて2こあまる。」であることを確認し、わり切れるわり算と同様に、わる数の九九を使って答えを見付けることができそうだということを理解した。



- 既習事項
- C 12÷3は簡単!
- C 3の段の九九を使って答えを見付けることができる。



- 課題をつかむ
- C 14÷3は計算できない。
- 既習事項であるわり切れるわり算との違いを明確に捉えさせる。
- C 図を使って考えられるかな。
- 自分なりの方法で解決できるようにする。

- 自力解決
- 図や絵、おはじきを使って、答えの求め方を考える。
- C 4人に分けられた。
- C 2個余るんだ。
- C わり切れるわり算と同じようかけ算を使えそう。